



弘岡秀明・中原達郎・加藤 典 著

Dr. 弘岡に訊く

臨床的ペリオ講座 1

歯科医師と歯科衛生士に必要なエビデンス

藤橋歯科医院・株式会社ジョルノ／安生朝子



B5判／136頁
定価 4,410円
(本体 4,200円＋税 5%)
医歯薬出版刊
(2010年6月)

私たち歯科衛生士は歯科医師のパートナーとして、患者さんの口腔内の健康を回復させる歯周治療の一端を担っています。そのためには「科学的根拠に基づいた歯科医療」EBD (Evidence Based Dentistry) の知見を深めることが必要です。本書では、序章として、各種検査の内容と方法など歯科衛生士の臨床に必要な基礎知識が提示されたのちに、臨床の現場で必要なエビデンスが「Q & A形式」で習得できるようになっています。

1980年代、スウェーデン・イエテボリ大学ではJan Lindhe教授、Sture Nyman教授らによって「スカンジナビア学派」が成立し、そのグループが行った多くの研究、疫学調査、動物実験により「プラークコントロール」の重要性の認識が確固たるものになりました。すなわち、歯周病の治療においては「プラークや炎症のコントロール」が基本であり、その仕事は歯科医師と歯科衛生士が重要な役割を担うこととなります。しかし、なぜ「プラークコントロール」が重要であるのか、皆さんは科学的に説明できるでしょうか。

1985年、23歳の私が行っていたブラッ

シング指導は難しいと言われたかもしれませんが、しかし、当時の私は指導に必要なエビデンスを懸命に学び、それを臨床に応用していたからこそ患者さんに納得していただくことができたのだと思います。本書2章「ブラッシングのエビデンス」からブラッシングの効果、限界の根拠を学び、ブラッシング指導に説得力をもたせることに役立ててください。

歯周病は、歯や歯根表面に付着した細菌性のデンタルバイオフィルムが原因となって引き起こされる感染症です。よって、歯周病の改善と安定には原因である細菌性のデンタルバイオフィルムの除去が必要です。1990年ごろの私はSRP時に、手用スケーラーを使うべきか、超音波スケーラーを使うべきか、迷うことがありました。さらに、歯周組織再生療法が臨床応用されるようになった1990年代後半、それらは失われた歯周組織の再生や骨欠損の形態回復に良好な結果をもたらすことになりました。しかし、SRPの効果・限界は？そして、歯科衛生士は何をすればよいのか？本書3章「SRPのエビデンス」では、それらの疑問を解決する手引きが書かれています。エビデンスを理解すれば、すべき処置が把握でき、歯科衛生士の役割がみえてくるのではないのでしょうか。

さらに「DH Noriのクリニカルアドバイス」として、歯科衛生士の加藤 典さんが、各テーマに対する臨床的なアドバイスを加えており、歯科衛生士がもつべき「知識の引き出し」の中身を満たしてくれる内容となっています。

歯科衛生士に必要なEBDを学びたい方必見の一冊として推薦します。